

課題の概要

- 課題名 「先端領域若手研究リーダー育成拠点」
○総括責任者名 「前田 秀一郎」
○機関名 「国立大学法人山梨大学」
(実施予定期間：平成21年度～平成25年度)

機関の現状

山梨大学は、「地域の中核、世界の人材」を理念とし、現代社会の要請に柔軟に対応できる教育、研究体制の整備を目指し、6年前に大学院を部局化した。この改革は、都市エリア産学官連携促進事業、先端計測分析技術・機器開発事業、21世紀COEプログラム、グローバルCOEプログラム、リーディングプロジェクト、NEDO Hiper-FCプロジェクト、元素戦略プロジェクト、地域再生人材創出拠点の形成プログラム、戦略的創造研究推進事業、大学知的財産整備事業、産学官連携戦略展開事業(戦略展開プログラム)、安全・安心科学技術プロジェクトなど、世界的研究拠点の形成や新たな医学工学融合プロジェクトの推進等に実を結んできている。

しかしながら、今後、一層、教育、研究の活性化を目指すには、優秀な若手研究人材を育てることができるよう、その根幹を成す人事制度を改革することが必要である。そこで、本プロジェクトを推進する。

人材養成システム改革・若手研究者育成の構想

山梨大学の人事改革制度の基幹プロジェクトとして位置づけ、「成熟型拠点展開ステップ」と「次世代拠点創成ステップ」を実行し、本学の次世代を担う先端領域若手研究リーダーが輩出できる環境の整備、確立を目指す。

実施体制は、学長の下に理事、全学部長等から成る運営委員会の他、教員審査委員会、若手研究者支援室、特任助教から構成される先端領域若手研究リーダー育成拠点を設置し、これを全学的体制で支援する。採用する特任助教には、総括的助言、支援を与える主メンター、先駆的研究を成し遂げた経験に基づく助言、支援を与える先駆者メンター、異分野からの助言、支援を与えるサブメンターからなる外国人を含む16人以上のメンターを配するとともに、スタートアップ資金、研究費、研究スペースを設けるなど、恵まれた研究環境と手厚い支援体制を供与する。また、国際サイエンスカフェの設置、国際シンポジウムの開催などにより、国内外からの研究者招聘による頭脳の交流と研究情報・人脈の構築を促進する。

特任助教は、国際公募で採用し、3年目に中間評価、5年目にテニユア審査を行い、テニユアの准教授としての採否を決定する。

本プロジェクトを通じて、現行人事制度を、学長裁量ポストの拡充・活用、任期制の導入、国際公募制の導入、外国人を含む学外審査委員による公正な評価制度の導入などにより抜本的に改革し、大学の理念、目標に叶った人事を、全学的先端領域若手研究リーダー育成拠点において実現する。

ミッションステートメントの概要

初年度に運営委員会、教員審査委員会、若手研究者支援室、先端領域若手研究リーダー育成拠点を設置し、6名の特任助教を、2年目には2名の特任助教をそれぞれ国際公募で採用する。併せて、メンターによる支援体制の構築、国際サイエンスカフェの設置、国際シンポジウムの開催などを行う。中間時(3年目)には、特任助教の研究計画、実施状況等を評価し、併せて支援体制、研究環境等の見直しを行う。4年目は、自主経費で2名の特任助教を国際公募で採用し、終了時(5年目)には、特任助教の最終評価を行い、テニユアの准教授としての採否を決定する。

テニユア・ポストは本学の工学系学域に確保し、高いテニユア取得率を目指すとともに、プロジェクト終了時には本制度を取り入れた全学的人事制度改革を実現する。

人材育成の実施体制

総括責任者：学長

先端領域若手研究リーダー育成拠点

拠点長：工学部長

運営委員会

理事、副学長、工学部長、医学部長、教育人間科学部長、分野代表等

教員審査委員会

理事、副学長、工学部長、医学部長、分野代表、学外審査委員、外国人研究者

若手研究者
(特任助教：8人(事業経費)
2人(自主経費))

若手研究者支援室

医学工学総合教育部

大学院生

工学部学生

医学工学総合研究部

テニユア・ポスト

先端設備

世界的研究拠点

国際サイエンスカフェ

国内外の研究者との交流、意見交換を通じて研究リーダーとしての資質を磨く

【実施内容】人材育成システム改革の年次計画

取組内容	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目～
○事業での取組	国際公募・選定		研究の方向性 戦略等を評価		1期任期終了	2期任期終了
若手研究者の 育成	高い研究成果の創出と 高いテニユア取得率を 目標	業績評価				研究室の 創成
		国際シンポジウム				セフティネット
研究環境整備	スタートアップ資金、豊かな研究費、複数メンターによる助言、院生配置等					
○自主的取組 研究環境整備	研究室の確保・整備					テニユア・ トラック制度を 取り入れた 全学的人事 制度改革
人事制度改革		テニユア・トラック制度 の全学的展開検討		国際公募・ 選定		
若手研究者 新規採用人数	6人 調整費経費	2人 調整費経費		2人 自主経費		4人 自主経費

④ミッシヨンステートメント

- 提案課題名 「先端領域若手研究リーダー育成拠点」
- 総括責任者名 「学長 前田 秀一郎」
- 提案機関名 「国立大学法人山梨大学」

(1) 人材養成システム改革構想の概要

山梨大学の人事改革制度の基幹プロジェクトとして位置づけ、「成熟型拠点展開ステップ」と「次世代拠点創成ステップ」を実行し、本学の次世代を担う先端領域若手研究リーダーが輩出できる環境の整備、確立を目指す。

「成熟型拠点展開ステップ」では、本学の二つの世界的研究拠点プロジェクトである「クリーンエネルギー・燃料電池ナノ材料研究プロジェクト」、「アジア域での流域総合水管理研究プロジェクト」を飛躍的に発展させる若手研究リーダーを育成する。「次世代拠点創成ステップ」では、世界的研究拠点の構築を目指し、本学が有する先進的プロジェクトである「ナノ光電子機能創成プロジェクト」、「医工融合世界先端機器開発プロジェクト」等を大きく発展させる若手研究リーダーを育成する。

国際公募により特任助教を採用し、特任助教には総括的助言、支援を与える主メンター、先駆的研究を成し遂げた経験に基づく助言、支援を与える先駆者メンター、異分野からの助言、支援を与えるサブメンターからなる外国人を含む16人以上のメンターを配するとともに、スタートアップ資金、研究費、研究スペースを設け、更には先端装置の優先使用、大学院生等の配属など、恵まれた研究環境と手厚い支援体制を供与する。また、国際サイエンスカフェの設置、国際シンポジウムの開催などにより、国内外からの研究者招聘による頭脳の交流と研究情報・人脈の構築を促進する。さらに、関連する分野の大学院生や学部4年次生を配属させ、教育スキルを養成する。

(2) 3年目における具体的な目標

初年度に運営委員会、教員審査委員会、若手研究者支援室、先端領域若手研究リーダー育成拠点等の実施体制を構築し、6名の特任助教を、2年目には2名の特任助教をそれぞれ国際公募で採用する。併せて、メンターによる支援体制の構築、国際サイエンスカフェの設置、国際シンポジウムの開催などを行う。中間時（3年目）には、特任助教の研究計画、実施状況等を評価する。この段階で既に准教授のテニュア・ポストを取得するに十分な研究成果を成し遂げているとみなせる特任助教に対しては、テニュア審査を前倒しで実施する。また、研究方法や戦略で問題が認識され、テニュアに認められない場合には、外部機関での活躍の場が見出せるよう、支援する。

(3) 実施期間終了時における具体的な目標

4年目は、国際シンポジウムに参加した世界的研究者による特任助教の人物評価、研究評価を行い、教員審査委員会においてグローバルスタンダードに基づいた人材育成・評価システムを構築する。また、自主経費で2名の特任助教を国際公募で採用する。終了時（5年目）には、特任助教の最終評価を行い、工学系学域に確保したテニュア・ポストの准教授としての採否を決定する。

(4) 実施期間終了後の取組

実施期間終了直後の6年目は、2年目に採用した2名及び4年目に採用した2名の総計4名のテニュア・トラックポストの特任助教を自主経費で支援していく。7年度目以降は、2年ごとに2名ずつのテニュア・トラックポストの特任助教を採用し、テニュア・トラック制度を取り入れた、全学的人事改革制度の実現を目指す。

(5) 期待される波及効果

本プロジェクトを通じて、現行人事制度を、学長裁量ポストの拡充・活用、任期制の導入、国際公募制の導入、外国人を含む学外審査委員による公正な評価制度の導入などにより抜本的に改革し、大学の理念、目標に叶った人事を、全学的先端領域若手研究リーダー育成拠点において実現し、小規模大学における若手研究者の自立的な研究環境整備促進の先駆的モデルを実現する。